

JCI-TC104A 繊維補強セメント系複合材料の新しい利用法研究委員会  
第3回幹事会議事録案

日 時：平成22年11月22日（月）15時～17時

場 所：JCI第1会議室

出席予定：金子，国枝，金久保，栗橋（敬称略）

議 事：

(1) WGの活動方針等の確認

- ・資料に基づき，他研究委員会の活動内容を比較し，本研究委員会の活動の参考にできる部分について意見交換を行った。
- ・各WGから，活動の方針についての紹介があり，審議を行った。主な内容は以下のとおり。

<新利用法WG：WG1>

- ・調査結果としてのリストは，資料編という位置づけであり，リストを解説するような本文を作成するイメージが良い。どのような切り口となるか，項目および具体例を挙げていただくこととした。
- ・表の第1列は「適用方法および適用部位」に修正する。
- ・文献の調査は，過去10年を目安とする。（前回のJCI高靱性委員会以降という意味）
- ・海外の事例についてもあると良い。繊維補強材料に関する代表的な論文集（HPFRCCなど）を中心とする。

<性能評価WG：WG2>

- ・長期性能を意識した評価方法の代表例として，「ひび割れ幅」を取りあげ，ひび割れ幅の具体的な評価方法の提案（例えば，ひび割れ幅評価ガイドラインの作成など）までを目的とする。
- ・最終的な報告書では，その他の指標（例えば，強度など）を扱わない理由も併せて説明すべきである。モニタリングできる指標（変形，ひび割れ幅）の一つであるという意味でも重要な指標の一つである。
- ・繊維の効果を顕著に表わす靱性（圧縮）も検討に値するため，たとえばこのような指標が他にもないかを再整理したうえで，WGでは優先順位をつけて検討していただく。

<環境対応WG：WG3>

- ・LCCの議論も含めて，その優位性を示すことができると良い。LCCそのものを議論すると発散する可能性もあるため，繊維を使ったことによる効果が明確になる部分だけでも良い。
- ・繊維を使ったことによるコストが，どの程度で回収できるのかの事例が示されるだけでも有益である。

本日の議論を踏まえて，3月に予定している第4回委員会にて，各WGのロードマップを作成し提示することとした。

以上